

連帯メッセージ

トランプ来日・天皇会談反対！ 5・25集会&デモにご参加のみなさん。

トランプ大統領は就任以来、難民の排除・壁の建設、イスラム教徒への迫害、イスラエルによるパレスチナの入植地の拡大の容認と大使館のエルサレム移転、サウジアラビアによるイエメンへの軍事介入と殺戮、気候変動対策に関するパリ協定からの離脱、イランの核兵器開発をめぐる国際合意からの離脱、ロシアとの中距離核戦力（INF）廃棄条約の廃棄など、世界を核戦争や環境破壊による破滅的危機、レイシズムとデマゴギーの扇動による分断と対立へと導いてきました。最近でもベネズエラへの介入とクーデターの画策、イランとの戦争の挑発と準備を進めており、イスラエルのネタニヤフ、インドのモディ、ブラジルのボルソナロなどのファシスト的政権との連携を強めており、また、ヨーロッパの極右政治勢力との結び付きも強まっています。

トランプ大統領の下で唯一、戦争の危険を緩和する方向へ向かうかに見えた朝鮮半島と東アジアは、朝鮮民主主義人民共和国の側の一方的譲歩を求めるトランプ政権の姿勢によって行き詰っています。

私たちは6月G20サミットに対する一連の行動の一環として、トランプ来日に反対する行動を大阪でも計画しています。英国でも6月上旬のトランプ来訪に向けて大規模な抗議行動が準備されていることが伝えられています。

「米国第一主義」を掲げる経済・通商政策を含めて世界的に孤立を深めるトランプ政権の最も忠実な同盟者を買って出ているのが日本の安倍政権です。

安倍政権は天皇代替わりと新元号施行を国民的イベントとして演出することでナショナリズムを煽り、「新しい時代」への根拠のない期待感を政権への支持に結び付けようとしてきました。残念ながらこの戦略は大きな成果を取れずに見えます。安倍政権を批判してきた人たちでさえ、このナショナリズムの扇動に迎合する言動が見られたのが現実です。

しかし、「新しい時代」への根拠のない期待感の深部に、「平成」と呼ばれた30年間の絶望的な状況をリセットしたい、リセットしてほしいという願望を見て取ることもできます。「ロストジェネレーション」と言われる世代の絶望感、「働き方改革」の名の下でますます「自己責任」を迫られ、労働者としての誇りと連帯が切り刻まれる職場の状況、既成政党への不信を、トランプ政権や安倍政権に体现される金持ちや巨大企業のための政治に対する怒りと反撃に変え、街頭や職場で声として表現していくことが本当に求められている時です。

私たちは世界のさまざまな社会運動とつながりながら、6月G20サミットに対する行動を全国のみなさんと共に成功させたいと考えています。6月28日には大阪市内での集会と御堂筋デモ、6月28日のサミット当日にはサミット会場に向かうデモを予定しています。共に闘いましょう。

2019年6月25日 G20大阪NO! アクション・ウィーク実行委員会